

二子大の騒動

(5)

不知火海紛争

◇調印にこぎつけた夜、小柄な古岡新日報社長の顔は青くこわばっていた。村上真漁連会長も顔をふせて多くを語らなかった。霜の降りた十二月十七日夜の知事公舎には、紛争の田淵解決という明るさはなく、むしろ気は重苦しく沈んでいた。午前零時近く、横田県鮭工課長が調停文を發表した。"会社は県漁連に三千五百万円を支払うこと。会社は漁民の立ち上り資金として六千五百万円を融資すること。県漁連は今後補償の追加要求はしないこと。"

かくして、水俣病問題をめぐる不知火海沿岸漁民と新日報の紛争にも一応終止符が打たれた。しかし、この紛争解決までには幾多の余曲折があった。通産・厚生両省のナメ張り争いなどもその一つである。来年は水俣病対策が本格的に動き出すべき年だが、これからモヤのなかにかくされてしまった。"まだ研究すべき点が残っていたのだ。しかし部会が各省のナメ張り争いで解散させられてしまった。"解散のあと、縣漁民の顔

ある。来年は水俣病対策が本格的に動き出すべき年だが、これからモヤのなかにかくされてしまった。"まだ研究すべき点が残っていたのだ。しかし部会が各省のナメ張り争いで解散させられてしまった。"解散のあと、縣漁民の顔

政治にかくされる

キメ手つかめぬまま

には、学者の良心が政治という奇怪な力への前にさくられたことに対する憤まんがみられた。部会が七月下旬の中間発表について十一月十日"ある種の有機水俣病問題に大きな転機を与えた。漁民たちは工場排水の即時停止と漁業補償を求めて工場の攻撃をはじめた。県も関係各省も"さ

には、学者の良心が政治という奇怪な力への前にさくられたことに対する憤まんがみられた。部会が七月下旬の中間発表について十一月十日"ある種の有機水俣病問題に大きな転機を与えた。漁民たちは工場排水の即時停止と漁業補償を求めて工場の攻撃をはじめた。県も関係各省も"さ

的なのがあった。八月十三日、水俣市の漁民が工場に乱入、石を投げ、もみ合った。三千五百万円の出費を要した。つい

と叱りつけた調査団は"これから各省のナメ張り争いはやめさせる。一致協力して対策を立てる。"と約束して引き揚げた。だがその一致協力が最初に現れたのは、厚生省が通産省の面子を立てて、水俣食中毒部会を閉切れトンボで解散させたことだった。"何のことはない。官僚同士の信義さ"とその協力ぶりを皮肉る向きもあった。

と叱りつけた調査団は"これから各省のナメ張り争いはやめさせる。一致協力して対策を立てる。"と約束して引き揚げた。だがその一致協力が最初に現れたのは、厚生省が通産省の面子を立てて、水俣食中毒部会を閉切れトンボで解散させたことだった。"何のことはない。官僚同士の信義さ"とその協力ぶりを皮肉る向きもあった。

水俣病問題の紛争は年内に解決した。工場の浄化設備も完成した。しかし水俣湾内にすてられた過去工場の廃棄物下は、有毒物質を含まないまでも広く積たわって



新日本水俣工場正門前に押しかけた漁民たち(10月18日)

.....
△